

室内装備的要因とその色彩の構成する配色が室内雰囲気及び影響 奈良女大家政 ○竹原広実 久保博子 磯田憲夫 梁瀬度子

本研究は居間におけるソファ、カーテン、クッションといった装備的要因を取り上げて、それらがどのように居間の雰囲気に影響を及ぼしているかを実験的に検討を行っている。今回は特に装備的要因の配色に着目して、従来より色彩学で調和する、または調和しないといわれている2色配色の色彩を装備的要因に施すことにより、色彩学における色彩調和が室内空間においても対応するか、また、心理的に快適な室内配色はどのようなものかの検討を行った。実験方法は、まず実際の居間の写真をスキャナーでパソコンに取り込み、それに画像処理を施して評価対象204種を作成した。そしてCRT画面に映った対象を直接被験者に呈示し、予備実験を行って選出した20の形容詞対について評価させた。その心理量は7段階SD法を用いて得た。評価対象の変化要因となる2色配色のパターンは、同一色相、類似色相、対照色相と同一トーン、中差トーン、対照トーンを組み合わせて検討を行った。その結果、因子分析より価値、活動性、あざやかさ、暖かさの4因子が析出された。また、数量化分析より、価値因子には配色のパターンが、活動性因子にはソファの明度が、あざやかさ因子にはソファの彩度が、暖かさ因子にはソファの色相が影響を及ぼしていることが明らかとなっており、居間におけるソファの影響が大きいことが明らかとなった。